

滋賀の文化情報誌
デュエット

Duet

2019 冬 vol.130

滋賀県博物館協議会主催

座談会

道の国・近江の魅力発信!!

—街道文化をいまに伝える博物館—



新撰 淡海木間撰 74

山内ふるさと絵屏風

INFORMATION STATION
催し案内 2019 冬

MYBOOK 自費出版物の紹介
SUNRISE BOOK PRESS
サンライズ出版の新刊案内

道の国・近江の魅力発信!!

—街道文化をいまに伝える博物館—

会場となった草津宿本陣の座敷広間。
壁には、鳳凰に見立てた柏大葉の唐
紙が貼られている。

2018年10月28日(日) 草津宿本陣を会場に、滋賀県博物館協議会主催の「道の国・近江の街道魅力発信!! —街道文化を今に伝える博物館—」が催されました。
かつての東海道と中山道にある4つの資料館の担当者が集い、歴史遺産の活用法と今後の課題などを語り合った模様をお伝えします。



草津宿本陣の台所土間。5連式の竈が設けられている



史跡草津宿本陣

住 所 草津市草津一丁目2-8

連絡先 TEL 077 (561) 6636

休 館 日 月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始

入 館 料 大人240円、高校・大学生180円、小・中学生120円

アクセス JR琵琶湖線「草津駅」下車、東口から徒歩約10分／名神「栗東IC」・新名神「草津田上IC」から約15分

取材／編集部 写真／和田一孝



史跡草津宿本陣の全景

それぞれの自己紹介と館紹介



草津市立草津宿街道交流館・
史跡草津宿本陣館長
やすき じゅん 八杉 淳 さん

八杉 本日の催しは、「道の国・近江」をテーマにした県内博物館の連携などを考えようと、滋賀県博物館協議会が企画しました。会場となった草津宿の私が進行を務めさせていただきます。

順に自己紹介を兼ねて、それぞれの館と宿場のご紹介いただきますのですが、まず、草津宿は東海道で52番目の宿場にあたり、東海道と中山道が合流する宿場でもあります。JRの草津駅から歩いてきて旧草津川のトンネルをくぐったところが東海道と中山道の合流点です。今日の会場である本陣から250mほど南に行ったところにある草津宿街道交流館で、草津宿本陣も管理しています。

草津宿本陣は平成8年（1996）に一般公開が始まり、草津市の歴史的な特性である「宿場」というものを紹介するために、街道交流館は平成11年に開館しました。



旧和中散本舗大角家
第25代当主
おおすみあつこ 大角 淳子 さん

大角 草津宿と石部宿（湖南市）の間、六地藏村（栗東市）というところにあつた梅木立場の本陣、旧和中散本舗を管理し

ております大角でございます。大名や天皇いろいろな方がご休憩なさいました。表の方は、「和中散」という道中薬を売ることと本業としていました。

父親が平成23年（2011）の暮れに突然亡くなったので急遽勤めていた会社を辞めて、家を任されました。不勉強な点もあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。



甲賀市土山歴史民俗資料館
係長
こまい ふみえ 駒井 文恵 さん

駒井 甲賀市土山歴史民俗資料館の駒井と申します。平成16年（2004）に近隣5町が合併した甲賀市は、土山と水口の2つの宿場町を持つことになりました。

土山は東海道の49番目の宿場町で、難所として聞こえた鈴鹿峠をひかえているので泊まる旅人が多く、宿場としての規模は一般的でしたが、その規模としては多めの44軒の旅籠がありました。東海道の部分は落ち着いた色にカラー舗装されており、歩かれる方にも好評です。

水口は、水口岡山城築城を契機に発展し、城下を兼ねた宿場町として賑わいました。

地元の人々と協力したさまざまな取り組み

八杉 来年（2019年）4月に「文化財保護法」が改正され、文化財をまちづくりを活用するという方向に動きつつあります。ご承知のように近江は、東西交通の非常に重要な場所です。西から東、東から西へ

※1 旧草津川トンネル 天井川として知られた旧草津川の左岸（南側）堤に火袋付きの石造道標が立っており、中山道と東海道の分岐点・合流点にあたる。

※2 立場 江戸時代、宿場と宿場の間で、人足・駕籠かきなどが休息した所。

※3 和中散 江戸時代、和中散本舗（大角家）が販売した腹痛などに効能のある粉薬。街道名物として知られた。

将来的に土山、水口それぞれに合わせた町づくりを一体的に考えていかなければいけないと考えています。



米原市柏原宿歴史館館長
たにぐち とおる 谷口 徹 さん

谷口 柏原宿は中山道沿いにあり、隣はもう国境を越えた今須宿です。ですから、本当に近江の端っからやってまいりました。当館の特徴は、宿場の資料がとてもよく残っていることです。これは彦根市にある滋賀大学経済学部附属史料館にたまたま地元の方がお勤めになっていて、非常に早い時点で資料をまとめて寄託なさったおかげです。ただ、いちいち借用しないて展示ができないというのも困りもので、将来的には柏原におもどりたいので、柏原宿の空いた建物を使って保存・展示用の分館をつくれなにかと考えています。

往来する際には必ず滋賀県を通らなければならず、江戸時代を通して起こった出来事や関わった人物にまつわるものが近江の宿場には残されました。まず、それぞれの施設で、こういった特

色ある取り組みをされているかを、谷口さんから順に少しご紹介いただけますか。

谷口 柏原には古い民家がよく残っているので、土蔵の中に漆しのものがたくさんあります。ところが、最近の方は漆器しきは扱いが難しいと感じてか、敬遠して使っておられない。そこで、当館で地元の方を対象に開いている「夜学やがく」という講座で、漆器の取り扱いについてお話と実習をしていただきました。そうした個人のお宅に眠っているものも、街道筋の文化財だと思えますのでそれが忘れ去られてしまっているのは大変もったいない。日常的に使うところまでいなくとも、床だとか違い棚に飾って目にしていたけるとよいのですが。

駒井 土山町の南東部にあたる山内地域（旧甲賀郡山内村）の6字のうち、猪鼻いのなと山中の2集落に東海道が通っています。

これに関連して、地域の高齢者の記憶を絵にする「山内ふるさと絵屏風びやうぶ ふう」の取り組みを紹介します。草津市では渋川しぶがわや矢倉やぐらなどでもなさっており、通常は小学校の学区で一枚の絵地図を仕上げるのですが、山内地域では、6集落それぞれが一枚ずつ制作されました。

私は、絵屏風を作成するための聞き取りにも参加したのですが、猪鼻・山中の住民からは、やはり街道筋ならではのお話を聞かせていただくことができました。ちょうど山中は鈴鹿峠からゆるくと下っていく地域で、その次に猪鼻という立場がありました。そこにも大角さんのお宅と同じように明治天皇がご休憩された場所もあって、賑わった場所です。

かつて三重県の亀山で牛の市いちがあった頃には、水口の方に売りにくる牛の仲買人が東海道をぞろぞろと牛を連れて歩いてきたそうです。当時、牛には蹄ひづめを保護するため

に草鞋わらじを履かせました。道ばたで草鞋を取り換えている光景を覚えているとお話しになった方もいました。

あと、土山には厄除やくよけけで有名な田村神社たむらという大きな神社があります。そこへも関の方からたくさん参拝客がいらっしゃいました。みんな、徒歩で鈴鹿峠を越えてくるので、草鞋がぼろぼろになる。そのため街道沿いの各家は、庭先に草鞋を引っ掛けておくように売れたそうです。

大角 私の所は個人所有の家ですので、拝観の方はご予約制というかたちでさせてもらっています。以前は月一回土曜日に開放していた時期もあったのですが。

現在は、「大角氏庭園」として国指定名勝になっている小堀遠州作とも伝わる庭園で、カキツバタやサツキが咲く5月下旬から6月上旬の土曜・日曜を、栗東の観光物産協会と調整したうえで開放しています（2019年は5月18・19・25・26日）。

他にも最近では、秋のお彼岸の中日に予約なしで拝観していただけるようにしました。対応は、栗東ボランティアガイドの皆さんにもお手伝いしてもらっています。

谷口 米原市にも観光ボランティア協会があって、派遣されてこられます。すべてのお客さんについてこられるわけではなく、大人数の団体の予約があったときに随行されるという形です。

駒井 土山歴史民俗資料館は街道沿いではなく、ちょっと小高い文化公園の方にあるので、街道沿いに東海道伝馬館でんまという、昔の伝馬所を模した建物があり、そこが観光ボランティアの方の拠点施設として使われています。

観光ボランティアは甲賀市観光協会が申込などを受け付けているので、私たちの属する歴史文化財課とは、行政の仕組み上、

※4 山内ふるさと絵屏風 9ページ「新撰淡

海木間撰・10ページ「催し案内」参照。

※5 田村神社 甲賀市土山町北土山にある神社。鈴鹿峠の悪鬼を平定した坂上田村麻呂を祀る。

※6 もぐさ ヨモギの葉を干して、白しろでついで綿状にしたもの。火をつけて灸きゅうをすえる。



➡大角氏庭園
(大角家提供)
書院に面し、高さ4m余りの築山がつくられ、日向山を借景としている。



東海道伝馬館

住 所 甲賀市土山町北土山1570

連絡先 TEL 0748 (66) 2770

休館日 月曜日、火曜日、年末年始

入館料 無料

(写真は土山歴史民俗資料館提供)

分かれてしまっているのですが、やはり歴史的な内容を観光していただくために歴史文化財課にお問い合わせいただくこともあります。

ただし現状は、土山も水口も観光ボランティアガイドをやってくださいの方が減り、後継者育成が課題となっています。

八杉 大きな博物館では、館に所属する案内ボランティアがいらっしゃるところもあり、そういう人たちの力が、資料館や博物館に欠かせないものになってきていると思います。非常に熱心に勉強されている方もおられますので、そういう方と連携していくことも必要でしょう。

ウォーキングの街道歩きツアーは急増

八杉 続いては、街道沿いの施設であるため、それを「強み」とした取り組みが考えられるものがあればお願いします。

駒井 どこもそうですが、公共施設の職員の数が減らされたなかで、市民と連携しなければ立ち行かないようになっていきます。

先ほどお話しした「ふるさと絵屏風」は、「山内エコクラブ」という団体との協働事業です。他に甲賀市内では水口の「みなくち自治振興会」が、再び街道筋に賑わいを取り戻すために東海道水口宿盛り上げ事業に取り組まれ、そこに歴史文化財課も関わらせていただいています。

11月4日に、水口の曳山保有町の有志主

催により、点検簿を活用して曳山を保護管理する研修会を開きます。歴史文化財課が曳山の文化財としての価値についてお話しし、そのあとに実際の曳山と点検簿を使って、具体的な維持管理の方法を検討することになっています。

谷口 まず「強み」としては、最近の健康志向から、旧街道をウォーキングする人が増加しました。つまり、館の前を通る人の数は確実に増えましたが、実際に入館料を払って中に入ってくる人は少ない。なぜかというと、皆さん歩くことが主目的ですから、足にしっかりと靴を履いて、何だかややこしい留め方をしておられるんですね。



米原市柏原宿歴史館

住 所 米原市柏原2101
連絡先 TEL 0749 (57) 8020
休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）、祝日の翌日、年末年始
入館料 大人300円、小人（小・中学生）100円

国指定重要文化財「大角家」住宅旧和歌本舗



住 所 栗東市六地藏402
連絡先 TEL 077 (552) 0971
休館日 予約申込制、年末年始、盆休み
入館料 一般400円、小中学生200円

甲賀市土山歴史民俗資料館



住 所 甲賀市土山町北土山2230
連絡先 TEL 0748 (66) 1056
休館日 月曜日、火曜日、年末年始
入館料 無料



草津市立草津宿街道交流館



住 所 草津市草津3-10-4
連絡先 TEL 077 (567) 0030
休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）、祝日の翌日、年末年始
入館料 一般200円、高大生150円、小中生100円

↑座談会出席者の所属館の位置（写真は各館提供）

当館は、街道沿いに大正時代に建てられた商家を改装した建物で、畳敷きの座敷なども売りののですが、多くの方は靴を脱いで中に入らず、Uターンされてしまっています。「弱み」みたいな話になりましたが。

大角 大角家住宅も、靴を脱いで上がっていただく建物ですから、ウォーキングの方は二の足を踏む方が多いです。まれには、集団の一人が「私は電車を一本遅らせて、お金を払って入る」と言われたら、皆さん一気に入られたということもありましたが。

八杉 ここ数年、旅行会社がウォーキング、街道歩きツアーを非常にたくさん企画なさっています。それも何十人という単位ではなく、草津の場合ですと、何百人単位で連れてこられる。実際、宿場のなかを大勢が歩かれるんですが、残念ながら施設の入館料はその旅行料金のなかに入っていないので、なかなか入館者の増加には結びついていません。それから、やはりトレッキングシューズを履いておられると、脱ぐのが厄介でもある。外から興味深そうにじっと見ておられても、なかなか（苦笑）。

谷口 足を止めてもらうために、やったことあるんです。柏原は「存じのようにもぐさ」を売る店が最盛期には10軒以上ありました。それになぞらえて、併設している喫茶「柏」で「やいとどん」という定食をつくったんです。「やいと」をすえているような姿のうでんで、お屋に注文いただければ、登録文化財の建物からお庭を見ながらお食事をしていただけますよと宣伝しています。



↑柏原宿歴史館の座敷（同館提供）

八杉 せかせか通り過ぎずに、腰を下ろしてゆっくり時間を過ごしていただきたいという気持ちがありますね。

駒井 先ほども申し上げましたが、土山で街道沿いの施設として東海道伝馬館があるのですが、土山宿本陣がある昔の宿場町の中心にあり、ここの館長は解説のお話がすごく上手な名物館長です。そういう人に助けられている部分はすごく大きいなと思っています。

取り組みとしては土山宿本陣に残されていた江戸時代から明治初期までの宿帳（市指定文化財）の調査がすでに完了しています。土山宿本陣には、現在も当主がお住まいで、現代風に少し手を入れられている部分もあるのですが、かなり昔の雰囲気をとどめている建物です。調度品や古文書もたくさん残っているので、草津宿本陣の調査結果なども参考にさせていただきながら、それらの調査も進めたいと思っています。

八杉 大角さんのところも非常に多くの美術品や資料をお持ちですが、いかがですか。
大角 祖母がまだいた昭和60年（1985）頃、皆さんに見てもらったらいいと思って、『過去帳』をテーブルの上に置いておいたら破れたことがあって、これではいけないということで、栗東歴史民俗博物館に預かっていただくことになりました。

難しいのは住環境が変わってしまっ、襖のある家に暮らしたことのある子どもが少なく、襖にさわったり走って回ったりされると、「ちょっと待って」と注意しなければいけない。子どもさんたちにも見学してもらいたいけれど、そこは難しいですね。
八杉 歴史資料や美術品の公開と活用とともに、その裏側に課題として残されるのが保存というものだろうと思います。見ていただいて活用するというのが昨今の動向に

はなつてきていますけれども、おっしゃったように、保存と活用の両立は難しい。

谷口さんは柏原の前には彦根城博物館にもお勤めでしたが、そのあたりどうですか。

谷口 年とともにだんだん頭が柔らかくなると言いますかね、脳軟化症なのかもしれない（笑）、考え方が変わってきました。以前はすべてきちっとガラスケースに納めて保存することが第一という考えだったのが、最近は物によっては触れてもらえばいいのではないかと考えるようになりました。柏原の歴史館は、撮影室を部屋として確保するのも難しく、よくいえば全部がオープンスペースになっているので、私なんかは居直りまして、展示の動線（来館者が通るルート）のなかで写真を撮影したり、あるいは漆器をクリーニングする作業をしたりしています。

そうすると、これは一種の逆転の発想だと思うんですが、「へえ、こういうお仕事があるんですね。普段はダベっておられるだけだと思ってました」と感心していただけたら（笑）。作業を見ていただくことで、会話や収蔵品に興味を持っていただくきっかけにもなると思いますし。

まだまだ整理できていない宿場の資料

八杉 少し話を戻しますが、先ほど駒井さんが土山宿本陣に残された古文書などの調査の話をなさったように、まだまだ近江の街道筋の宿場については整理できていない資料が多く残されており、わかっていない部分も多いんです。谷口さんの柏原宿にも膨大な宿場の資料が残されており、そのデータ化や活用というのも課題かと思っています。
谷口 「萬留帳」と言いまして、宿場の問屋場を務めた家が代々よるずのことを書きとめた資料です。それが数百年分、大変な

八杉 かつての谷口さんからは、思いもよらない発言でございました。確かに、普段の仕事を知ってもらうことも非常に重要で、今回のシンポジウムも、そうした館それぞれの活動を広く知ってもらうという目的もございます。

ここで、草津宿本陣のお話をさせていただきますと、本日は皆さん椅子に座っていただいています。けれど、畳の上に座布団を敷いて、1時間半座り続けていただくとなると、なかなか参加していただけない。かつてはこの屋敷のなかで落語会や能、狂言を催していたこともあるのですが、私自身が年を取ってくると、なかなか畳の上に長時間座っているのがしんどいということもあって、だんだん変わりつつあります。

また、子供を対象としたワークショップをやったりもしています。冬場であればかるた大会とかですね。先ほど、大角さんがおっしゃったように、広い畳敷きの部屋と、というのが最近の子たちにはとても珍しいもので、やっぱり走り回ります。どうしても傷むことも前提に考えていかなければならない。

量があるわけです。

その翻刻、つまり活字化する作業を始めて、今年で2年目になります。いろんな切り口で読むことができるものになると思います。江戸時代というのは記録の時代で、非常にたくさん資料が残っています。

それと同時に、古文書を読むための勉強会も定期的にやっていたいています。

八杉 柏原宿の『萬留帳』は問屋場の記録で、近江の宿場では残っているものが非常に少ない資料です。これによって、近江の

宿場全体の解明にもつながるのでないかと思えます。駒井さんのところには、土山宿本陣の宿帳がありますね。

駒井 土山宿には本陣が2軒あったのですが、そのうちの土山家本陣には、計17冊の分厚い宿帳が伝わってきました。昔は紙が大事だったからでしょう、びっちり細かく文字が記されています。誰が泊まった、誰が休憩した、いくら拝領した、何を食べた、といったことが記載されています。そのデータをエクセルの表にしたところ、宿泊者数は約1万6000件を超えることがわかりました。特に幕末になると、勝海舟^{かつかい}、篤姫^{あつひめ}といった有名人の名前が現れます。



↑細川右京大夫に提供された昼食(レプリカ)
(土山歴史民俗資料館提供)

また、土山家は肥後(熊本県)の細川家とのゆかりが大変深く、細川家だけを別に記した宿帳もあります。細川家の記事はすごく細かいので、それをもとに、ある日の食事のレプリカをつくったこともあります。

これからいろいろ

ような角度で見ると、さまざまなことがわかってくるかなと思います。平成21年(2009)に『東海道土山宿本陣土山家文書宿帳調査報告書』として刊行したのですが、大変人気があり、在庫はございません。興味がある方は、県内の図書館で探していただければと思います。

八杉 草津の本陣にも元禄年間からの大福帳が18冊が残されていますので、終了後の見学で見えていただければと思います。

駒井さんのところと同じで、草津でも今年度から文化庁の補助をもらい、本陣文書の調査を始めました。当初の予想以上に多くの資料が新たに出てきており、本陣の経営なり運営に関する認識をくつがえすような資料ではないと思いますが、欠けていたピースがどんどん埋まっていくのではないかと思います。

また、草津宿本陣の宿帳だけではわからなかったことが、土山の宿帳や石部の本陣の宿帳などを合わせてみることで、わかることもあるでしょう。翌日、翌々日なりに別の宿場の宿帳に名前が現れるわけですから、有名無名を問わず、ある旅行者の旅程を詳細に追うことでわかってくるものもあるのではないかと思います。

※7 **問屋場** 江戸時代、街道の宿場で、人馬の継立などを取り仕切り、貨銭の帳付けなどを行った所。

※8 **安井小弥太** (1905~1985) 昭和初期から児童雑誌『コドモノクニ』や『少年倶楽部』に挿絵を掲載。『はしれ機関車』『世界の乗物』などの絵本で人気を博す。

※9 **吉村公三郎** (1911~2000) 天津生まれだが、実家は柏原宿の庄屋。『安城家の舞踏会』(1947)、『偽れる盛装』(1951) などが高い評価を受ける。

それならそれで、谷口さんが先ほどおっしゃったような逆転の発想で、ここここをつなげるといった地域をまたいだ企画は考えやすいのかもしれない。複数の地域を巻き込んだ取り組みができないかな、いまは考えています。

谷口 駒井さんがあげられた土山出身の絵本作家の方のように、地域出身の人物といえば、柏原宿からは吉村公三郎^{よしむらこうざう}という映画監督が出ており、彼が子ども時代にすごした家やゆかりの資料があります。

また、宿場には共通点と同時に、それぞれ固有のものがあるんですね。地場産業として柏原だったらもぎです。やはり当時は歩くのが基本ですから足が疲れます。やいとをすえて、リフレッシュしたんですね。柏原の近くにはヨモギが豊富だったので、それをもぎに加工して大々的に宣伝し、広く知られるようになりました。そうすると、宿場内の他の建物などを分館にして、それぞれのテーマを展示するかたちで、宿場をめぐるながら長く滞在していただくという構想も可能かと思えます。将来的にも、一つの館で全部こなすというのはちょっと無理があるだろうと思っていますので。

八杉 街並み全体が博物館のようになっていくというのも一つの方法ですね。

課題解決に複数館の連携を

八杉 続いては、それぞれの館で抱えておられる課題についておうかがいします。駒井さん、いかがですか。

駒井 やはり近年は来館者数のことをいろいろ言われるんですね。ですが、土山歴史民俗資料館の場合、街道をはずれた小高い場所にあり、なかなかぶらっと入っていただくというわけにはいかない。待っていても仕方がないので、こちらからも出向こうという動きをしています。

10月4日に開催された「あいの土山宿場まつり^{やすいこやた}」では、土山出身の安井小弥太^{やすいこやた}さんという乗り物絵本作家の原画展が街道沿いの土山中央公民館で行われ、そのお手伝いをしました。資料館では、2010年に安井小弥太さんの特集展示をしたのですが、今回、初公開の資料が出てきたということ。

もう一つの課題は、担当職員が少ないことですね。私自身も兼務している状態で。

草津で私どもが常に課題と思っているのは、先ほど駒井さんもおっしゃった入館者数の問題です。今日ここにお座りのどちらかといえは年齢層の高い皆さんを前に言うのも気が引けますが、次代を担う子どもたちにもっと興味を持ってもらう取り組みも必要なのではないかと思っています。そのため仕掛けをしたりもしているのですが、なかなか今の子どもたちは休日でも塾やスポーツクラブで忙しいのか、興味を持ってもらえない状況です。当館の職員はそういう部分ですごい努力をしていますが、なかなか反応がありません。

街道や宿場の魅力をどうやって発信していったらいいのか、何かアイデアをお持ちですか。

谷口 館どうしの連携は今後やっていかなければならないでしょうね。共通点のある資料を貸し借りして比較した展示にすると、興味が湧く部分も出てくるかもしれない。駒井 私も、やはり館同士の連携はすごく大事だと思います。先ほども八杉さんがおっしゃったように、それぞれの宿場の資

博物館は人がいないと「怖い」

八杉 それでは、ここから来場者の方との質疑応答に移ります。

質問者A 大津に住んで一年半の者です。大津の周辺で生まれた近江八景に非常に興味を持っています。草津宿については、近江八景を描いた歌川広重が東海道五十三次の浮世絵も描いているのを見たり、有吉佐和子の小説『和宮様御留』に中山道を通る道中で草津宿で昼食をとったことも書かれていたので、「そうなのか」と認識しました。

お城でも日本城郭協会監修の『日本100名城』という本には、スタンプ帳がついていて回りながら押していきます。西

料は比べるものが多ければ多いほど、いろいろなことがわかってくると思います。

残念ながら水口の本陣の資料は残っていないのですが、そうした県内の本陣関係の資料を一堂に展示する巡回展を催すとか、もっと小さなテーマでもよいので連携を進めていけたらよいと思っています。

大角 極力皆さんのご要望にお応えできるようにやっていくとは思っています。

八杉 街道文化の振興に取り組んでいる全国街道交流会議という組織が、街道資料ネットワークの構築を始めています。これは、街道関係の資料をあまり面倒な手続きを経ずにお互い貸し借りをして街道をアピールしていくために立ち上げられた組織で、東京や埼玉など遠方の館とも連携してお互いに情報交換や提案をしながらやっています。

一つの館で知恵を出すより、二つ、三つ、四つの館で知恵を出し合えば、もっとよいアイデアが出てくるんだろうと思いますし、そういう助け合いも、道でつながった資料館だからこその特徴であると思います。

国3カ所の御朱印を押していくのと同じ感覚です。私はまだ三つほどの宿場町に行っただけですが、スタンプ帳みたいなものがあれば、あちこちの宿場町を回ってみたいと、いろいろな世代の人を、引きつけられるのではないかと思います。

八杉 ありがとうございます。何年か前に県の博物館協議会でもスタンプラリーをやりましたが、継続的にそうした取り組みを考えていければと思います。

谷口 子ども世代向けとしては、以前街道関係の言葉を入れた数え歌をつくっていたことがあります。「一番初めは一里

塚」とかいつて。うちの息子も30歳になりましたけれども、子どもの頃、その数え歌を盛んに歌うので、ついつい親まで覚えてしまったということがあります。最近、地元の史跡保存会でカルタ作りを始めているのですが、手法としては、そういう歌でなじんでもらうというのもあると思います。

質問者B 新選組の山南敬助は京都から江戸へ向かうとして、大津の宿で沖田総司に捕らえられるわけですけど、一歩進んで草津宿まで来ていれば、中山道と東海道とに分かれる場所ですし、沖田は山南を連れ戻せなかったらという話もあったりして、草津宿はおもしろいところだと思のですが、それは置いておいて。

私は博物館によく行く方なのですが、例えば大津市歴史博物館などでも「あれ？ 私一人」というようなこともあって、はつきり言って博物館はあまり人がいないと「怖い」感じがします。そのせいで、サツと見て出てしまおうという感じになる。栗東歴史民俗博物館では、ちょうど学芸員の方がいらっしゃり、「一人で怖いから」とお頼みしたら、各コーナーごとに解説してくださって、とても勉強になりました。いつも学芸員の方につきそっていただくのも難しいと思うので、一人でも長くいられるような工夫があったらよいと思います。

八杉 そういう時は、貸し切りだと思ってくつろいでいただければ（笑）。受付や事務所にお声掛けいただければ、学芸員なりがつきそうことも可能だと思います。

それではそろそろお時間です。本日は4館の担当者が集まりましたが、他にも街道沿いの資料館・博物館が数多くあります。複数の館が連携し、近江の歴史を発信できればと思っています。本日はありがとうございます。（2018・10・28）

山内ふるさと絵屏風

甲賀市土山歴史民俗資料館

駒井文恵

昨年（2018年）、土山町山内6地区のふるさと絵屏風が完成しました。これは地域住民の暮らしの記憶を形にして未来へつなげる取り組みで、市民団体の山内エコクラブの活動の一環として行われたものです。

ふるさと絵屏風は、完成までの過程が重要とされます。聞き取り、下絵の制作、絵屏風への清書を進めてい



↑山内ふるさと絵屏風 山中（部分）

中央を走る東海道を中心に、虫取りや川遊びなど懐かしい情景。牛の仲買人がぞろぞろと牛を引くさまは、当時の街道の様子を彷彿とさせる。

く中で、人々のつながりが生まれ、日に日に高齢者が生き生きしていく様子が見られました。描かれた内容はふるさとへの思いにあふれています。年上の子が年下の子の面倒を見たこと、屋根の萱葺きの手伝い合いをしたこと、川をせき止めて泳いだこと、ササユリの咲き誇る風景など、人と人の豊かなつながりや人が自然とともに暮らしてきたことを再認識させるものとなっています。現在、土山歴史民俗資料館では、山内ふるさと絵屏風とそこに描かれた民具を紹介していますが、制作過程にも注目しながらご覧ください（会期…1月27日まで）。

さらに今年度から、市民協働事業で「記憶文化財を活用した地域博物館プロジェクト」に取り組んでいます。これは、絵屏風と市内の資料館の保管民具を使った事業を中心に展開していくもので、今後は「昔の暮らし」授業や「お出かけ回想法」など子どもから高齢者まで幅広い人を対象にした事業を進めていきます。このように絵屏風は、歴史文化だけでなく、学校教育、福祉医療、観光、人権など、幅広い分野での活用が期待できます。

関連事業として、2月10日13時30分から、あいこうか市民ホール展示室でフォーラムを開催します。絵屏風提唱者の上田洋平氏をコーディネーターに、健康福祉医療や観光などの専門家、地域の絵師をパネラーに迎え、絵屏風のまちづくりへの活かし方について県内の絵屏風先進地の事例も参考にしながら深め合う機会とします。思い出が詰まった記憶の玉手箱、一緒に開けてみませんか。

入館料：大人400円、小中生200円

休館日：会期中無休

■関連講座「宮川藩と堀田氏」

2月23日(土) 午後1時30分～

講師：井並悦子(長浜城歴史博物館学芸員)

会場：セミナー&カルチャーセンター「臨湖」
(長浜市港町4-9 TEL0749 (65) 2120)

参加費：500円(事前申込不要、当日受付)

お問い合わせ先：TEL 0749 (63) 4611

滋賀近美よもやま講座 月刊学芸員

滋賀県立近代美術館

現在、休館中の滋賀県立近代美術館では、館のコレクションなどをわかりやすく解説する講座を各地で開催しています。

「絵画を読み解く」

～ことばを介した鑑賞のすすめ～

1月20日(日) 午後2時30分～4時

講師：平田健生(県立近代美術館 主任学芸員)

会場：コラボしが21 中会議室1

定員：40名

「ポップの時代 ～滋賀県立近代美術館現代美術コレクションより～」

2月17日(日) 午後2時30分～4時

講師：田平麻子(県立近代美術館 主任学芸員)

会場：コラボしが21 中会議室1

定員：40名

「製本ワークショップと学芸員よもやま座談会」

3月17日(日) 午後1時～3時30分

講師：吉川紀子氏 + 学芸員

場所：コラボしが21 中会議室2

定員：20名

参加料：いずれも無料(要事前申込、先着順)

お申し込み方法：以下のいずれかの方法でお申し込みください。

インターネット…滋賀県立近代美術館ホームページの申し込みフォームからお申し込みください。



往復はがき…以下の項目を明記してお送りください。お名前・ご住所・電話番号・E-mail
アドレス・ご希望の講座名・講座開催日

宛先：滋賀県立近代美術館

〒520-0807 滋賀県大津市松本1-2-1
大津合同庁舎5F

お問い合わせ先：TEL 077 (522) 2111

企画展示 戦時下の村と陸軍飛行場

1月9日(水)～6月2日(日)

滋賀県平和祈念館



大阪陸軍航空廠八日市分廠発動機工場にて(宮本喜蔵さん提供)

大正11年(1911)に開設された八日市飛行場は、誘致運動をくり広げた地元が期待したとおり、街の経済を活性化すると同時に、昭和初期に深刻な農業不況におちいった農村部にとっては安定した就職先にもなりました。今回は、農村に生まれた人々が戦時体制に組み込まれ、激化する戦争にまき込まれていったようすを紹介します。

入館料：無料 休館日：月・火曜日

■学芸員による展示説明会

1月19日(土) 午後1時30分～

お問い合わせ先：TEL 0749 (46) 0300

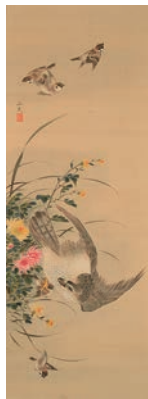
企画展 みやがわ 近江宮川藩と歴代藩主たち

1月19日(土)～2月24日(日)

長浜市長浜城歴史博物館

江戸時代、坂田郡宮川村(現在の長浜市宮司町)に陣屋を置いた宮川藩について紹介。領地にわずかに残った古文書や絵図などを手がかりに、宮川藩の歴史をひもときます。

また、歴代藩主自ら手がけた絵画と書跡によって、彼らの姿にも迫ります。



宮川藩第6代藩主・堀田正民(狐鷹撃雀図)

企画展 山内ふるさと絵屏風 —記憶の玉手箱—

開催中～1月27日(日)

甲賀市土山歴史民俗資料館



市民活動団体山内エコクラブが、2年かけて制作した「山内ふるさと絵屏風」を展示します。昔の生活風景が描かれ、人々の豊かなつながりや人が自然と共に暮らしてきたことを再認識させるものとなっています。絵屏風に描かれた民具も展示しています。

入館料：無料 休館日：月・火曜日

お問い合わせ先：TEL 0748 (66) 1056

ふるさと絵屏風フォーラム

みんなで記憶の扉を開けましょう

—ふるさと絵屏風大集合—

2月10日(日) 午後1時30分～4時

会場 あいこうが市民ホール 展示室

甲賀市水口町水口5633 TEL 0748 (62) 2626

入場料 無料 出入自由

フリーセッション

午後1時30分～

「蘇る地域の記憶」

県内13地区のふるさと絵屏風を見ながらの語り合い。

ディスカッション

午後2時30分～

「絵屏風(文化資源)をまちづくりに
どう生かすか」

コーディネーター

上田洋平氏(滋賀県立大学 助教)

パネラー

川戸良幸氏(琵琶湖汽船社長)

佐甲 隆氏(元公衆衛生医師)

谷川重喜氏(山内ふるさと絵屏風活動リーダー)

長峰 透(甲賀市教育委員会事務局歴史文化財課長)

お問い合わせ先 山内エコクラブ

TEL 090-7966-2262

2019 びわ湖の森の生き物研究会シンポジウム びわ湖の森の明日を考える

1月20日(日)
午前9時30分～12時
(午前9時～受付開始)



琵琶湖の水源であるとともに、人々の生活に不可欠な地域資源である滋賀県の森林(平地林、里山、集水域の森林)の変遷(とくに人とのかわり)を知ること、次世代につなぐ新たな森のあり方や森づくりについて考えます。

会場 滋賀県立男女共同参画センター
G-NETしが 視聴覚室
近江八幡市鷹飼町80-4 TEL 0748 (37) 2751

定員 100名

参加費 無料、事前申込不要

基調講演

午前9時30分～10時30分

「びわ湖の森 ブナから見える森の変遷」

講師 青木 繁氏(生物多様性保全活動支援センター)

パネルディスカッション

午前10時40分～12時

「びわ湖の森の明日を考える」

パネリスト

青木 繁氏(生物多様性保全活動支援センター)

廣瀬正明氏(滋賀県琵琶湖環境部森林政策課長：やまの健康 PT リーダー)

水田有夏氏(東近江市市民環境部森と水政策課審議員：
森おこしプロジェクト)

丸橋裕一氏(東近江市河辺いきものの森：主幹)

コーディネーター

山下直子氏(森林総合研究所関西支所主任研究員：
森林生態研究グループ)

お問い合わせ先 びわ湖の森の生き物研究会

寺本 携帯 090-1132-3225

岸田(サンライズ出版内) TEL 0749 (22) 0627

第59回企画展

近江の考古学黎明期

—近江風土記の丘50周年キックオフ企画—

2月8日(金)～4月7日(日)

滋賀県立安土城考古博物館



大中の湖南遺跡調査風景
(滋賀県教育委員会提供)

近江風土記の丘は昭和45年(1970)に開設され、もうすぐ50周年を迎えます。近江の考古学黎明期ともいえる時期に郷土史家たちが採集した遺物や、高度経済成長期の発掘調査による出土資料などを展示し、滋賀県の考古学と埋蔵文化財行政の歩みをたどります。

入館料：大人500円、高大生300円、小中生・県内高齢者(65歳以上) 無料

休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)

■企画展関連博物館講座

「近江の考古学黎明期」

2月11日(月)祝 午後1時30分～3時

講師：田井中洋介(当館学芸課長)

■連続講座Ⅱ「考古学史に輝く近江の遺跡」

第1回「安土城跡」

2月16日(土) 午後1時30分～3時

講師：木戸雅寿氏(滋賀県教育委員会)

第2回「紫香楽宮関連遺跡群」

2月23日(土) 午後1時30分～3時

講師：鈴木良章氏(甲賀市教育委員会)

第3回「近江大津宮関連遺跡群」

3月2日(土) 午後1時30分～3時

講師：宮崎幹也氏(米原市)

第4回「鴨稻荷山古墳」

3月23日(土) 午後1時30分～3時

講師：白井忠雄氏(高島歴史民俗資料館)

第5回「石山貝塚」

3月30日(土) 午後1時30分～3時

講師：福西貴彦(当館学芸員)

会場：安土城考古博物館 NPS セミナールーム

定員：各140名(当日受付午後1時～ 先着順)

参加費：200円

お問い合わせ先：TEL 0748 (46) 2424

公益社団法人 滋賀県獣医師会主催

ドキュメンタリー映画

「鳥の道を越えて」
上映会&ディスカッション

1月27日(日)

午後2時～4時(午後1時30分～ 受付)

かつて東濃地方(岐阜県東部)では、渡り鳥を捕らえる「カスミ網罟」が盛んに行われていた。どうやって渡り鳥を捕らえたのか、なぜ食べる必要があったのか、そしてなぜ現在は禁罟になっているのか……監督自身が祖父から聞いた言葉をきっかけに、人との鳥の歴史を追う。[上映時間93分]

上映終了後、今井友樹監督と篠原徹氏(滋賀県立琵琶湖博物館館長)の対談、質疑応答を行います。

会場 滋賀県立琵琶湖博物館 セミナー室
草津市下物町1091 TEL 077 (568) 4811

お問い合わせ先 公益社団法人滋賀県獣医師会
TEL 077 (526) 1966

2014年 キネマ旬報
文化映画ベスト・テン
第1位

蒲生氏郷公顕彰会主催

日野が生んだ戦国時代の英雄
「蒲生氏郷の城」展

3月3日(日)～3月23日(土)



氏郷生誕の城、日野中野城から、信長・秀吉の天下取りの戦いに出陣した城や会津城主として制圧した東北の城、氏郷が築城した松坂城と会津若松城など全36城を写真と解説文で展示します。

会場 日野町立図書館 展示コーナー

休館日 月・火曜日、祝日

記念講演会

3月10日(日) 午前10時～

会場 日野町立図書館 視聴覚室

講師 福永 保氏(日野観光ボランティアガイド協会)

お問い合わせ先 TEL 0748 (53) 1644 (日野町立図書館)



おうみ
淡海文庫 61

近世への扉を開いた羽柴秀吉 長浜城主としての偉業を読む

太田浩司 著

B6判並製本 総200頁 1500円＋税

長浜城を築き、城下町を「日本近世」の原点となる都市へとつくりかえた羽柴秀吉の事績を元長浜城歴史博物館館長がわかりやすく解説。

別冊淡海文庫 25 比叡山の僧兵たち 鎮護国家仏教が生んだ武力の正当化

成瀬龍夫 著

B6判並製本 総232頁 1800円＋税

戒律の第一に置かれる不殺生戒を破り、中世の仏教教団に武力を有する僧兵が存在したのはなぜか。その武力正当化の論理に迫る。



愚僧108話 こころのサプリメント

もとあき
三山元暎・三山智涼 著

B6判並製本 総240頁 非売品

問合先 米原市池下594 (著者)

新緑のまぶしさと感じる瞬間は、仏教にいう「感応道交」である。真宗大谷派真勝寺の前任住職と前坊守が、暮らしの中の出来事から仏の教えを説く108話を収録。(2018.10.27刊)



三島池の郷 池下物語

池下区史編纂委員会 編

B5判並製本 総294頁 頒価3000円

問合先 米原市池下516 三山元暎 (編者代表)

逆さ伊吹を映す絶景の地として知られる米原市池下。水鳥たちの飛来する三島池の自然、応仁の乱を逃れて池畔の庵に移り住んだ京都五山の文人・万里集九の事績などを紹介。(2018.11.15刊)

近江学 第11号

成安造形大学附属近江学研究所 編・発行
A8判並製本 総96頁 1800円＋税

特集は「里のいとなみ」。写真家・今森光彦の原点ともいべき里にまつわるフォトエッセイを巻頭に、大津市仰木地区の成立にまつわる伝説、近江と美濃の交流拠点として発展した奥伊吹の歴史に関する論考などを収録。

続 近江漫遊

菊池光治 著

A5判並製本 総200頁 1800円＋税

滋賀県で受け継がれるユニークな祭りを見物した「近江の祭り」、前作に引き続き社寺や旧跡を探索した「近江漫遊」、能の舞台を訪れた「謡曲街道」、文楽・狂言など古典芸能を取り上げた「古典芸能に遊ぶ」の4部で構成。



アルキメデスもそうだったのか

古賀泰治 著

A5判並製本 総26頁 頒価500円

問合先 名古屋市中区豊田二丁目23-7-202 (著者)

セミプロマジシャンとして中部地方で活動する著者が、手品との出会いと練習する日々、録画ビデオをくり返し見直し、自力でトリックを解明した瞬間の喜びなどを綴る。(2018.10.20刊)

う しょうねずみ 有情鼠

伊藤善規・伊藤紀美代 著

A5判上製本 総166頁 頒価1500円

問合先 彦根市佐和町6-14 (著者)

ネズミの兄弟妹とイタチの母娘が、2人の大黒様の命を受け、人間親子を救うために奔走する冒険ファンタジー。病床の妻と二人三脚で書き進め、没後三回忌にあわせ刊行。(2018.11.28刊)



表紙写真 国指定史跡草津宿本陣の上段の間

参勤交代の大名などが宿泊した部屋。

編集後記 座談会が行われた10月28日、草津駅前周辺は「クサツハロウィン2018」が催され、草津宿本陣前の旧東海道も延々と仮装した人の列。2ページの外観写真を撮影したカメラマンもひと苦勞。その前の昼時間には、京都橘高校マーチングプラスバンドの行進を旧草津川の公園から鑑賞。独特のガ二股振り付けは、高速の奴振りに見えなくもありませんでした。⊕

Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1

サンライズ出版株式会社 Duet 編集部

TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先